新規事務事業マネジメントシート 作成日: 平成 25 年 7 月 30 日

事務事業名		塩谷	町結婚	活動支援事業		✓事	✓ 事後(中間)評価対象事業				
総合	政策	策名				所属課	生涯学習課	担 当	生涯学習担当		
計画	施策名						課長名	関 雄治	担当者名	森田裕仁	
:	予算科	目	会計	款	項 目 事業	事業コード	名 関係法令・ 条例等	社会教育法			
1	事業期	間	Ě	——— 単年度 <i>0</i>	<u> </u>	繰返 (開始年度	年度)	✓ 期間限定(25 年度~	29 年度)	
1 事務事業概要 次世代担う独身男女のふれあい交流事業を企画・運営し、新たな出会いやカップル誕生に努め人口減少に歯止めを掛 青年層による活発な地域交流と子どもの姿が見える町づくりを図る。 本事業の企画立案等については、企画調整課、産業振興課、保健福祉課と連携し実施する。 募集にあたっては、新聞、広報しおや、ラジオのほか、JAしおのや、田所工業団地等にも声をかけ参加者を呼びかける。 なお、開催場所、時期は、星ふる学校くまの木で12月を予定してる。 2 概算事業費 イベント開催費50万円(詳細は今後協議する)											
(1) 事務事業の目的と指標 (1) 活動の計画 (活動の量・大きさ・規模等) 結婚したい若者に出会いの場を提供する (2) 対象 (事業は誰・何を対象にしているのかを記載) 結婚したい若者 (男性町内25歳以上、町内外女性23歳以上) (4) 活動指標 (事務事業の活動量を表す指標) 名称 (5) 対象指標 (対象の大きさを表す指標) 名称									単位		
結	昏に結	びつけ減に少	けたい ᠈しでも	歯止፟	 象をどうしたいのか うを掛けたい	記載)	→ ア男 イ女 ⑥成 ・ アカ	性参加者数 性参加者数 巣指標(対象における意図の 名称 ツブル誕生数	達成度を表す指標)	単位組	
_, ,	- 12X 114			<u>'</u>				1		ᄑᅷᅆᄯᄨ	
				単位	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成32年度 総合計画 最終年度	
	加指標		標値	回回	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	総合計画	
活重	加指標	イリ	議 <u>値</u> 標値 議値		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	総合計画	
		イまり	議値 標値 影 議値 標値	回 回 0	平成25年度	平成26年度	平成27年度 1 20	平成28年度		総合計画	
	加指標	イアイアノ	系積値 日標値 日標値 日標値 目標値	回 回 0	1	1	1	1	2	総合計画 最終年度	
対象	杂指標	イアイアイア	系統 日標値 日標値 日標値 日標値 日標値 日標値	回 回 0 人 人 人	20	20	20	20	2	総合計画 最終年度 1	
対象		ア イ ア 日 第 日 第 日 第 日 第 日 第 日 第 日 第 日 第 日 第 日	《	回 回 0	20	20	20	20	2	総合計画 最終年度 1	
対象	杂指標	ア イ ア オ ア オ ア ア オ ア イ ア イ ア イ ア	ミ績標値 三種標準 三種語 三種語 三種語 三種語 三種語 三種語 三種語 三種語	回 0 0 人 人 人 組 1 0	20 20 2.	20 20 2	20 20	20 20 20	2	総合計画 最終年度 1 20 20 2	
対象	注 指標 財源 財源 	アイアイアイ計画県地	養標 養標 養標 養標 養標 養標 養標 養標 養標 養標	回回 0 0 人 人 人 4 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	20	20	20	20	2	総合計画 最終年度 1	
対対が対対が対対が対対が対対が対対が対対が対対が対対が対対が対対が対対が対対が	注 指標 財源 財源 	ア イ ア イ 計庫県地ぞ	《 操行	回回 0 0 人人 人人 和 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	20 20 20 平成25年度	20 20 20 平成26年度		20 20 20 2 2 平成28年度	平成29年度	総合計画 最終年度 1 20 20 平成32年度 00	
対象	指標 財源内訳 事規	アイアイアイ計庫ませる一費員等に第三第三第三第三第三第三第三第三第三第三第三第三第三第三第三第三第三第三第三	等情標, 「一個」 一個 一個 一個 一個 一個 一個 一個 一個 一個 一個	回回 0 0 人 人 人 4 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	20 20 20 平成25年度	20 20 20 平成26年度		20 20 20 平成28年度	平成29年度	総合計画 最終年度 1 20 20 平成32年度 00	
対 成 投入量 投入量	指標 財源内訳 事規	ア イ ア イ 計庫県地で一貫員業員主美国美国美国美国美国英国大学の設計従務	ミ 標準 は は で は で は で で で で で で で で で で で で で	回回 0 0 人人人 人 4 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	20 20 20 平成25年度 	20 20 20 平成26年度 500 500 1		20 20 20 20 平成28年度 	平成29年度	総合計画 最終年度 1 20 20 2 平成32年度 00 00 1 1	
対 成 投入量 投入量	指標 財源内訳 事規 人	アイアイアイ計庫ませる一費員等に第三第三第三第三第三第三第三第三第三第三第三第三第三第三第三第三第三第三第三	ミ 標準 は は で は で は で で で で で で で で で で で で で	回回 0 0 人人人人 A 4 1 0 0 0 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	20 20 20 平成25年度	20 20 20 平成26年度		20 20 20 2 2 平成28年度	平成29年度	総合計画 最終年度 1 20 20 2 平成32年度 00 1 1 0 0	
対 成 投入量 投入量	指標 財源内訳 事規延 人 一	アイアイアイ計庫東地で一番員業費ス実	受ける (1) では、	回回000人人人 1000 1	20 20 20 平成25年度 	20 20 20 平成26年度 500 500 1	20 20 20 平成27年度 500 500 1	20 20 20 20 平成28年度 	平成29年度	総合計画 最終年度 1 20 20 2 平成32年度 00 1 1 0 0	
対 成 投入量 投入 事業	指	ア イ ア イ ア イ 計庫県地で、横で、牛口 国県地で、 養員業費ス 実庫・実力の設計従務計(4) 績支上方の	受ける 「「「「「「」」」 「「」」」 「「」」」 「「」」」 「」 「」」 「」」 「」」 「」」 「」 「」」 「」	回回000人人人A組00 千千千千千千千千千千千千千千千千千千千千千千千千千千千千千千千千千千千				20 20 20 平成28年度 	平成29年度 50 50	総合計画 最終年度 1 20 20 2 平成32年度 00 1 1 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	
対 成 投入量 投入量 投票	Table Ta	ア イ ア イ ア イ 計庫県地で、横で、牛口 国県地で、 養員業費ス 実庫・実力の設計従務計(4) 績支上方の		回回000人人人	20 20 20 20 平成25年度 500 500 1 1 0 500	20 20 20 20 平成26年度 500 500 1 0 500 平成26年度	20 20 20 20 平成27年度 500 500 1 1 平成27年度	20 20 20 20 平成28年度 ————————————————————————————————————	平成29年度 50 50	総合計画 最終年度 1 20 20 20 2 平成32年度 00 1 1 1 0 0 0 1 1 1 0 0 0 0 0 1 平成32年度	

	評価項目	説明	事前評価結果	実施後の状況	事後評価結果						
的	① 公共関与の妥当性 なぜこの事業を町が行わなければな	異性との出会いの無い若者に出会いの場を提供し、結婚してもらいたい。	✓ 適切		適切						
当	らないのですか?税金を投入して、 達成するものですか?	塩谷町から若者の転出や、少子化 に少しでも歯止めを掛けたい。	見直し余地あり		□ 見直し 余地あり						
1/4	② 着手・実施の必要性 この事務事業をなぜ着手・実施しなければならないのか?先延ばしにできない理由は何か?	現在、塩谷町には結婚適齢期の男性、女性が大勢おり、町民から結婚活動支援を町で実施して欲しいとの要望があり、先延ばしできない。。	✓ 適切 見直し 余地あり		□ 適切 □ 見直し 余地あり						
効率性	③ 総事業費の算定根拠 算定にあたってコスト削減策を考え たか?将来のコスト増要因に対して 対策が考えられているか?	本事業は魅力・特色ある事業でないと参加者が集まらないので、参加費を安く考えている。 事業費を町の負担でも、当町のカッ	☑ 適切		適切						
価		プルが誕生すれば良いと考えている。	□ 見直し 余地あり		□ 見直し 余地あり						
	④ 受益と負担との関係 事業の内容は受益と負担との公 平性が考慮されているか?	参加者負担では人が集まらないので、町負担が多くなっても仕方が無いと判断している。 なお、参加者からも若干の参加費は考えている			□ 適切 □ 見直し 余地あり						
L	本关型 体用		#	**************************************							
	事前評価結果)事前評価者として判断した今後	の事業の方向性		<u>前評価日: 平成 25年 8</u>	9月 1日						
(-	✓ 1次案のまま採択)採択条件		·採択								
		置 • · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	くこと。 スマートフォン等を 合は、安全性をも 町内の女性にも面	Eを十分に検討し、参加者を多く集め を利用したPR(ツイッター、フェイスブ 確保すること。(誹謗、悪意のある書) 記慮した参加しやすい内容にすること	ックなど)をする 込みに注意する)						
4	成果検証		事後(中間	<u>間)評価日: 平成 26年 3</u>	月 日						
事務事業実施後 の概要 (実施しての効 果、受益者等の 反応、問題点、 課題等を記載)											
(1)評価結果(今後の方向性)	(白奴) ¬¬¬		지하(成用사) . 라.나. 왕조현	s 再 心 声 \						
● (成果大) □ 可 □ 不可(成果なし・中止・計画変更必要) (2) 総評 (3) 指示事項											
(<u>*</u>	THE LITTER STATES AND ADDRESS OF		○ 再評価対象	重 坐							
1				1.512							